

COOP

京都の生協

●2004●JANUARY●NO. 50
発行●京都府生活協同組合連合会

C O N T E N T S

- ◆2003 京都 たべるたいせつフォーラム ...8
記念講演「DASH村がやってきた～
制作現場からのメッセージ」
- ◆消費者保護基本法の抜本改正を 12
- ◆「第3回京都府協同組合職員体験・交流学校」
開催 13
- ◆「浦島エコローの森づくり」
植樹ボランティアに参加 13

Talk Talk トークとーく

京都の「食」、文化——信用を築いていくために.....2

●半兵衛麩

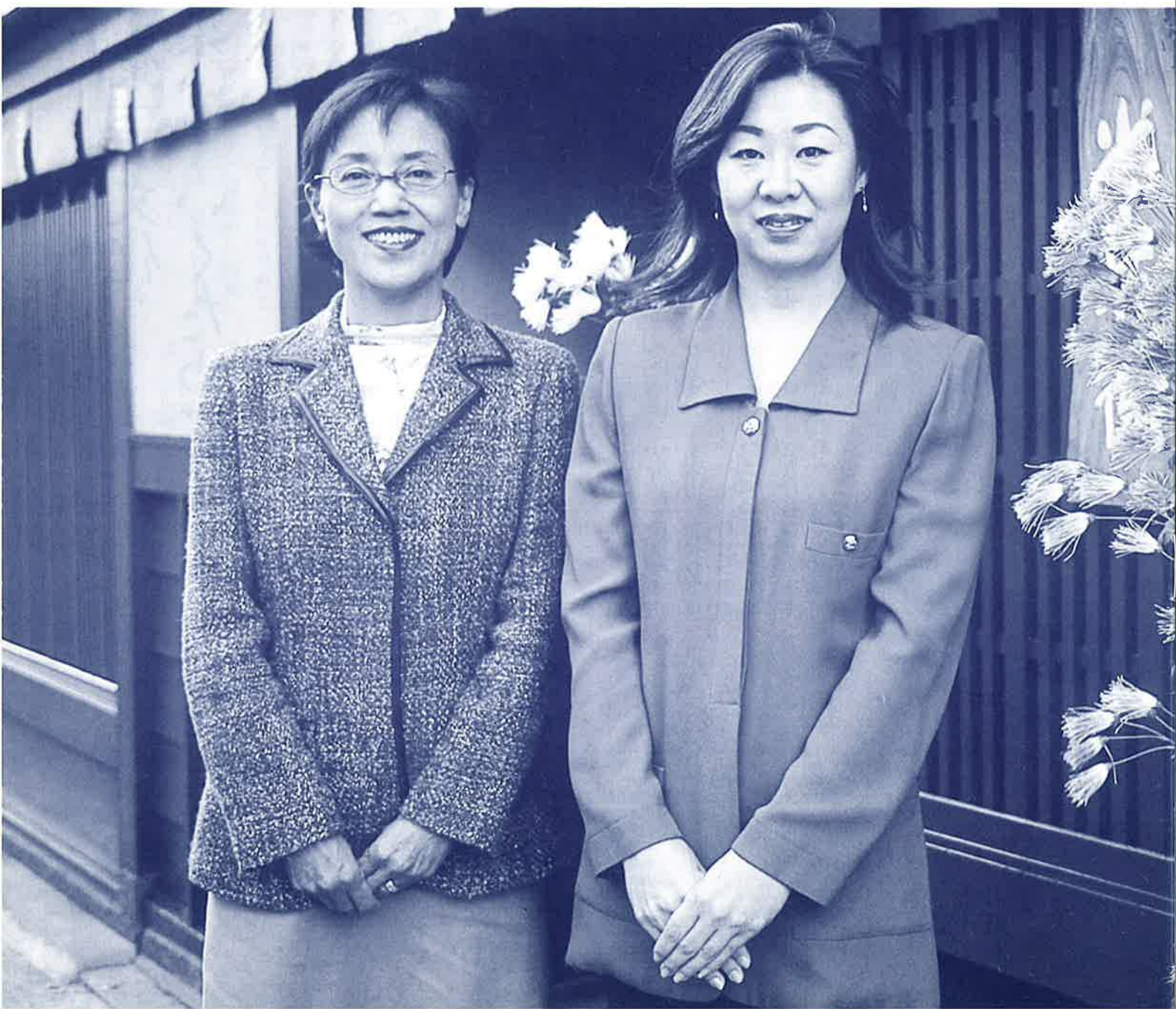
たまおき まみ
玉置 万美さん

●京都府生活協同組合連合会副会長

(京都生協理事長) こばやし ともこ
小林 智子さん



2003年度 京都府総合防災訓練に参加
山田啓二京都府知事の激励を受けました。





対談

京都の「食」、文化 信用を築いていくために

Talk Talk

トークとーく

ラザニアやグラタン、マザー生麴にフレンチトースト、ハンバーグのつなぎ等々。かつて寺や宮中で食べられていた「麴」が、このごろ、新しい顔で家庭の食卓に登場し始めた。

伝統を守ること、京都の文化、そして「麴」。玉置万美さんは元禄二年創業の「半兵衛麴」をフィールドに、毎日そんなことを考えている。

絶えず新しいものを取り入れて

三〇〇年

小林 はじめまして。実は、

私の娘が先日、結婚式を挙げまして、そのお礼の品に半兵衛麴をお贈りしたというんです。遠くからご出席いただいた方に何か京都らしいものと、娘たち自身が選んだようで、とても喜んでいただいたと聞きました。

玉置 それはありがとうございます。玉置 そうですね。生協のみなさんとは、すいぶん長い付き合い合になりますね。

小林 それに私自身、ここはとても懐かしいお店なんですよ。十数年前に京都生協の組合

員活動で半兵衛麴さんの見学会を企画して、まだ一組合員だった私も参加しました。

小林 万美さんは、二年前に半兵衛麴の専務取締役となられ、三〇〇年以上の歴史を引き

継がれましたが、どんなお気持ちですか。

玉置 単に「伝統」を引き継ぐだけでは、「博物館」になりそうな気がしますので、精神などはしっかり守りつつ、新しいものを取り入れて、その時代に合ったお商売をしなければと思っています。だから、あまり「伝統」を意識せず、たまたま私が選んだ仕事で麴屋さんだったというふうに考えるようにしています。

小林 万美さんのお父さまの十一代目半兵衛さんのご本を拝見すると、「老舗」は「老いた店舗」と書くが古いのはアカン。新しい店でなければだめだ」と

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談	
京都の「食」、文化——信用を築いていくために……	2
2003年度 京都府総合防災訓練に参加……	7
2003 京都 たべるたいせつフォーラム ……	8
記念講演「DASH村がやってきた〜制作現場からのメッセージ」	
組合員の手でダイオキシン調査 ……	10
生産者と消費者はパートナー ……	11
消費者保護基本法の抜本改正を ……	12
「第3回京都府協同組合職員体験・交流学校」開催 ……	13

「浦島エコーの森づくり」植樹ボランティアに参加 ……	13
TOPICS ……	14
●第15回 近畿地区生協・行政合同会議開催	
●「第15回KYOのあけぼのフェスティバル2003」ワークショップ開催	
●京都府勤労者健康スポーツフェスティバル開催	
●京都市ゴミ減量推進会議がマイバッグ持参を呼びかけ	
●京都消費者団体連絡協議会が特定非営利活動法人(NPO)として新たなスタート	

●2003年度京都の生協活動への功労者表彰式開催	
●男女共同参画委員会が京北町銘木生産協同組合を訪問	
●「京都環境フェスティバル2003」に出展	
●「第5回京都消費者フォーラム」開催	
●トーク&イート企画「21世紀京都の稲・コム・ごはん 〜生産と消費になう〜」開催	
おもな行事のお知らせ ……	16
探訪 カンフォール ……	16

お書きになっていますし、以前、この対談でお目にかかった池坊由紀さんも「生花は、時代のくらしとともに絶えず変わってき

マーボー生麩？ 焼き麩のフレンチトースト？

小林 お麩は、そもそもお寺に伝わったそうですね。

玉置 ええ。室町時代に、修行僧をはじめとする方たちが精進料理のひとつとして、中国から日本に持ち帰られたんですね。ですから長い間、お寺のなかだけで育まれてきました。

それと、御所の式典でも使われましたね。初代半兵衛は御所の台所で働いていて、そこで麩を教わったようです。そんなご縁で、いまでも「手まり麩」や「もみじ麩」を宮内庁にお納めしています。

麩は、長い間、お寺や御所のなかだけで供されてきたのです

たからこそ、何百年も続いてきた」とおっしゃいました。なるほど、伝統とはそういうものなのかと、あらためて感じますね。

が、やがて法要の料理にも出されるようになって、庶民に広がり、京都の本山で修行されたお坊さんたちが地方に帰られた際にも広がっていきました。ですから、小京都といわれる地方には麩があります。

小林 明治期以前は、挽き割り粉が原料だったそうですが、そのころのお麩はどんなものだったんですか。

玉置 挽き割りの小麦粉は、水で練ってもあまり粘度が出ないので、焼いていたんですね。ザラザラの挽き割り粉を焼いて、それにお味噌を塗って、けしの実をかけて、くるくると巻いたもので、「麩の焼き」と呼ばれ、千利休のお茶会などに使われていたようです。現在の「松風」というお菓子に少し似ているかもしれません。

昔は、どちらかというとお薬のように使われていたようで、

元禄時代に出版された薬の本『食物和解大成』にも出てきます。

小林 一般の家庭で食べられるようになったのはいつごろなのでしょう。

玉置 お味噌汁に入れる焼き麩は早くから食卓にのぼっていましたが、生麩は、流通システムが整ってからですから、ごく最近ですね。

小林 生麩は京料理につきもので、高級食材というイメージがあります。私は、生麩を冷凍庫に常備して、おつゆに入れたりしているのですが、そういうものがひとつ食卓に載っているだけで、とても贅沢な気分になります。

玉置 そうですか。私にとっ

ては常に身近な食材ですから、冷蔵庫に麩しか入っていないければ、「しゃあない、これでも使えうか」という感じですよ(笑)。

わが家の食卓にはマーボー生麩



半兵衛麩
玉置 万美さん
たまおき 万み



京都府生活協同組合連合会副会長
(京都生協理事長)
こばやし ともこ
小林 智子さん



やラザニア、焼き麩のフレンチトーストなどがしょっちゅう登場します(笑)。

小林 わが家のすき焼きにはもち麩が定番で入りますね。

玉置 ありがとうございま

す。この本店に茶房を設けたのも、麩のいろいろな食べ方をご紹介したかったからなんです。とくに生麩は、「お料理屋さん

でいただくもので、家庭ではちよっと……」と思われがちなものですから、インターネットのホームページでも召し上がり方をご紹介します。

「一〇〇パーセントを心がけるおもてなしの心」

小林 万美さんは「おこしやす京都委員会」の幹事委員を務めておられますが、どんな活動をなさっているのですか。

小林 万美さんはどんな活動を？

玉置 「おこしやす京都委員会」は、観光客をおもてなしする精神を京都市民が持ちましよう、という運動を推進している会で、「京都市民が」という点がミソです。また、京都の良さを地方の方に知っていただく活動もしています。

玉置 一期目は「界隈発掘」部会で、伏見界隈や嵐山、醍醐寺周辺などの新しい観光資源の発掘に取り組みました。いまは二期目で、ホームページを担当しています。

委員には観光産業と無関係の方がたくさんいらして、ごくふつうの市民の方から「うちの近所にこんないいものがある。なぜ、これが観光スポットにならないのか」といったご意見が出たり、路地の奥にある「いいもの」を教えてくださいたいと思っています。おもしろいですよ。

小林 いわゆる「京のお茶漬け」の話が一人歩きして、「京都人」意識が悪い」というイメージがありますね。

玉置 うちの前にもマンションが建っていますが、なぜ、そうなるかというと、結局、遺産相続の問題があるんですね。ま

「京都市民が」ということで、観光業界の方だけではなく、一般公募に応募された主婦の方や洋服屋さんなど一〇〇人の委員が、部会ごとにさまざまなプロジェクトに取り組んでいます。来年は新撰組が大河ドラマになりますので、新撰組をテーマにした観光を考えているんですよ。

小林 京都の人は、「おもてなしの心を大事にしよう。一〇〇パーセントのものをお出ししよう」という思いがあるのですが、それが逆に「敷居が高い」というイメージにつながっているのかもしれない。たとえば京都には仕出屋さんがたくさんありますが、これも「私がつくったものよりも、プロのお料理を召し上がっていただきたい」という気持ちがあるからなんです。

小林 なるほど、そうだったんですか。

玉置 ですから私たち「おこしやす京都委員会」は、自然発生的に「おもてなしの心」が広がっていくと思っています。

小林 ただ、京都のまちのなかはどうどん変わっていて、町家が壊れるとその跡にすぐマンションが建っていきます。

玉置 うちの前にもマンションが建っていますが、なぜ、そうなるかというと、結局、遺産相続の問題があるんですね。ま



ちの景観が壊れるとわかっていても、マンションを建てざるをえない。そういう事情が背景に

あるだけに、なかなかむずかしいですね。

でも、いまはどこでも「歩く

観光」が注目されています。京都でそれをするには、まず路地を守らないといけませんね。

高校生に伝える「京都の文化」

小林 万美さんは、高校生の体験授業も引き受けておられるそうですね。

玉置 京都女子学園の高校三年の選択科目に「京都学」という講座があつて、その先生から声をかけていただきました。

小林 授業はこの本店でされているんですか？

玉置 ええ、三〇人ぐらいです、ここにきていただいています。ごろんのおり、襖や畳がある、古いだけ取り柄のような家ですが、でも、この家を残していこうと思ったら、畳を張り替えてくれる職人さんや表具師さんが必要ですし、京麩を商う私どもが生きていくためには料理屋さんが必要で、料理さんが必要です。つまり、この家そのものが京都の文化によって成り立っているようなものなんです。

小林 本当にそうですね。同じ話でも、こんな素晴らしい町家で聞けば、実感をもつて受けとめられるでしょうね。生徒さんの反応はいかがですか。

玉置 私語もなく熱心に聞いてくださって、「前は建築の仕

てくださって、「前は建築の仕

「体験授業をお引き受けしてよかったなあ」としみじみ思っています。

「食」への信用を築くために

小林 「食の安全」をめぐる多くの問題が起こり、私たちは、安心して食べるための「信頼」や「信用」ということがいかに大事かをあらためて感じています。

半兵衛麩には「先義後利」（せんぎこうり）義を先んじて利は後とする）の家訓があるとうかがっていますが、長く商売を続けられるなかでは、目先の利益にとらわれずに「信用」というものを大事にしてこられた

なのでしょうね。

玉置 お商売に限らず、人々とお付き合いも、顔を見て話をし、相手の方を信用できたら、お願いもできますし、お役に立ちたいとも思いますし、一緒に何かをしたいとも思うものではないでしょうか。

それに、信用していただくと思うたら、まず自分のできることをきちんとやって、だまることがないようにしなければならぬと思います。



でも、そうやって築いた信用も、失うのは一瞬なんです。

小林 本当にそうです。営々として築いても、一瞬にして崩れるのが信用です。

玉置 ですから、一瞬たりとも手が抜けません。

小林 そういう気持ちで、経営幹部だけではなく従業員全員に持ってもらうのはたいへんです。

玉置 半兵衛麩には約一四〇人の人たちが働いていますが、全員の方と毎日お話しするのはむずかしいので、私が専務になってからは月一回、『半兵衛だより』を出して、「こんなことを思

って仕事をしましょう」ということを伝えるようにしました。父はお給料袋にひとことメッセージを入れていたみたいですが、私はひとことでは言えなくて(笑)。

小林 毎月というのはたいへんでしょ？ 私も組合員さん向けの広報誌で月一回、コラムを書いていますが、それだけでもう、たいへん(笑)。

従業員のみなさんには、「あなたがお客さまだったら、どんなところでつくってほしいと思う？ 販売部門の人なら、どんな人に接客してほしい？ それ

を考えてみて」という話をしています。

「自分が客なら、やっぱりここはきちんと掃除してほしいやろなあ」——そういう視線で自分の仕事をみつめていけば、たぶん間違いないと思います。

小林 まったくそのとおりですね。生協の場合、組合員のみなさんは「お客さん」であると同時に「オーナー」ですから、ご意見をたくさん言ってください。

玉置 私の場合はA3判の紙面をひとりで埋めないといけないんですよ(笑)。でも、私が勝手に始めたものですから、続けられる限りがんばろうと思っています。



2003年度 京都府総合防災訓練に参加

京都府との「応急対策物資協定」にもとづき、
京都府生活協同組合連合会・JAグループ京都で
物資調達訓練に参加しました。



山田京都府知事（本部長）
の激励を受けました

9月6日、向日市内キリンビ
ール(株)工場跡地にて、「200
3年度 京都府総合防災訓練」が
開催され、京都府生協連はJA
グループとともに発災対応型訓
練に参加しました。



訓練は午前七時に京都府南部
で西山断層系を震源とするマグ
ニチュード7・5の大地震が発
生したという想定のもとでおこ
なわれました。

京都府生協連はJA京都中央
会とともに京都生協乙訓支部に
災害対策本部を設置し、京都府
との「応急対策物資協定」（97
年締結）にもとづく物資、牛乳
1000本・茶飲料400本を
調達。京都生協とJAグループ
京都の車両で被災地（キリンビ
ール(株)工場跡地）へ搬送しまし
た。



生協ボランティアとJAグループで応急物資を配布

これらの応急物資は、生協ボ
ランティア、JAグループ京都
の手で会場の参加者に配布され
ました。



生協ボランティアから山田京都府知事（本部長）に
応急物資の飲料が手渡されました

また、訓練に先立ち、8月20
日には乙訓地域で防災学習会が
開催され、京都府生協連災害対
策委員長 小川正府庁生協常任理
事（総括）が開会のあいさつを
のべました。



京都府生協連災害対策委員長
小川正府庁生協常任理事（総括）



向日市消防署のご協力で、緊急救命の基
本を学習

第10回 京都府生協大会・京都生協組合員大学習会 2003 京都 たべるたいせつフォーラム

11月6日開催「2003 京都 たべるたいせつフォーラム」に800名が参加

11月6日（木）、午後1時30分より、京都産業会館8階シルクホールを会場に「2003 京都 たべるたいせつフォーラム」が開催され、およそ800名が参加しました。これには会場席数をこえる1400通の応募があり、抽選となりました。

今回は、今年で第10回を迎える京都府生協大会と京都生協組合員大学習会を兼ねて企画されたものです。

農林水産省近畿農政局・食を考える国民会議・京都府・JA京都中央会・京のふるさと産品価格流通安定協会・生協総合研究所から後援をいただき、せいきょう虹の会からもご協力をいただきました。

主催者を代表して、京都府生協連の吉田智道会長理事のあいさつをのべました。



吉田智道会長理事

続いて京都府 山田啓二知事の代理としてご出席いただいた、京都府商工部 奥原恒興部長より、ご来賓のあいさつをいただきました。



京都府商工部
奥原恒興部長

また、京都府議会議長、国会議員各政党党派、関係団体、生協連などからも、祝電・メッセージをおよせいただきました。

〈祝電・メッセージ〉（順不同）

山井和則衆議院議員
池坊保子衆議院議員
こくた恵二衆議院議員
松井孝治参議院議員
福山哲郎参議院議員
田坂幾太郎府議会議長
中川泰宏JA京都中央会会長
大阪府生協連
福井県生協連
群馬県生協連

第一部では、農林水産省近畿農政局消費・安全部 永江啓一郎長より、「あらたな食品安全行政めざして」と題しての報告をいただきました。



近畿農政局消費・安全部
永江啓一郎長



舞台と会場が「一体」に。笑顔がいっぱいです。



「明雄さんはお米を作っていますか？」と質問するお子さんも…。

記念講演「DASH村がやってきた」 制作現場からのメッセージ

第二部、記念講演は「DASH村がやってきた」制作現場からのメッセージ」と題し、日本テレビ放送網(株)編成局プロデューサー今村司さんと、スペシャルゲストとしてDASH村の農業指導に携わっている三瓶明雄さんにご出演いただきました。



日本テレビ放送網(株)
編成局プロデューサー 今村司さん



スペシャルゲスト
三瓶明雄さん



お二人の間には「特別参加」した「八木橋」と「北登」の人形が置かれています。

よみうりテレビ「ザ！鉄腕！DASH!!」は、全国から共感・激励が寄せられる看板番組のひとつです。実在するのに、どこにあるのかわからないDASH村。3年前からテレビのなかだけで知るその村で、アイドルグループのTOKIO 5人組が、自然との共生をコンセプトに、真っ向から農業に取り組んでいます。2003年、栄誉ある第18回農業ジャーナリスト賞にも輝きま

した。

お話の前に、過去3年間の「DASH村の食と農の挑戦」を15分間にダイジェスト編集していただいたものを上映。番組を見たことのない方にもわかりやすくしたいへん好評でした。つづいて番組プロデューサーの今村司さんに、現代日本の食と農をめぐるさまざまな問題が指摘されるなかで、DASH村の制作現場から伝えたいことは何か、人気グループTOKIOのメンバーはどう変わったのかなど、エピソードをうかがいました。

会場インタビュアでは、スペシャルゲスト三瓶明雄さんと今村プロデューサーが、会場からの質問に答えるというやりとりで、質問者には特別参加したヤギの「八木橋」、柴犬の「北登」の人形がプレゼントされました。



最後は明雄さんと会場の参加者とでじゃんけんゲーム。全員が参加して盛り上がりました。

最後に京都生協 小林智子理事長があいさつをのべ、閉会しました。
参加者には、京野菜と京野菜料理冊子がプレゼントされました。



小林智子 理事長

組合員の手でダイオキシン調査 生活協同組合エル・コープの環境活動

大気への疑問からスタート

エル・コープの「松葉のヤニ」を採取してダイオキシン濃度を測定する」という調査活動が、3年めを迎えました。

私たちの住んでいる街や、地域の空気はどうなっているのだろうか？ 汚染されているのだろうか？ そんな疑問から、河川の環境ホルモン汚染の調査に引き続き、自分たちの手で調査を始めることになりました。

今回の調査の目標として、エル・コープの組合員が住んでいる街すべてを調査することを掲げましたが、2002年度（第二次）で17行政区、2003年度（第三次）で6行政区の調査を実施し、合計23行政区すべてを調査しきることができました。

調査で見えてきたこと

調査の結果、全国と比較して決して高い数値に一応はつとしました。しかし、環境ホルモン物質は微量でも作用するということも忘れてはなりません。そのため、乙訓地域の組合員は乙訓清掃工場周辺の独自調査も追加しました。

ダイオキシンは、大量のごみ焼却によって発生することもありました。京都市は、ダイオキシン対策に膨大な税金を費やしていますが、一方で塩化ビニルのラップがまだ大量に販売されて家庭ごみとなっています。根源を絶やすとりくみをさらにすすめることが重要だと思いました。

あわせて、ごみを減らすためのとりくみをしている人にも、していない人にも、同じように税金が使われているということ

への寂然としない気持ちも残りました。

引き継がれる調査活動

今回調査にとりくんだ結果、私たち自身の手で貴重な数字を残すことができました。このことはエル・コープの組合員の「環境課題」への関心を高めるとともに、自分たちで始めることの大切さが芽吹いてきたのではないかと感じています。調査で得たデータはエル・コープ組合員の財産となっただけではなく、京都市民のこれからにとりくみにも役立つていくと思います。

そして、この調査は私たちの街に隣接する大阪の千里生協、アルファコープに引き継がれ、エル・コープも参加するWILLネットワーク環境委員会の活動にもなりました。

子どもたちに残す未来

現在、廃棄物処理・リサイクルにかかった費用を調べる「廃棄物会計調査」にもとりくみ始めています。ごみを減らすリユース、再使用するリユースの観点が不十分な容器リサイクル

法の改正を求める運動にも参加しています。ごみを出さない、ごみを減らす運動としてこの間とりくみが続けてきた「のんびりリユース」の活動もさらに強

化していきたいと思っています。子どもたちにどんな未来を残していくのかを考えながら...

（文責エル・コープ理事 堀本もも子）



2003年11月7日「松葉によるダイオキシン調査結果報告会」が開催されました



生産者と消費者はパートナー

～学生がコップ牛乳のふるさと 鳥取大山でインターンシップ～

学びの機会をつくる

2年前、コップ牛乳産直交流協会主催の「産直フォーラム」に参加した学生が、大山乳業の生産者のお宅にファームステイをさせてもらいました。そこで「もっと生産者のことを知り交流したい」という思いが膨らみ、インターンシップというかたちでの学びの機会をつくることを考えました。

学生・生協職員・大山乳業職員・酪農家のみなさんで準備をすすめ、2002年初めて実施。当初は一部の酪農家の方から「将来酪農をするわけでもないのに」という声も聞かれ、想いが食い違った部分を残してのスタートでした。

しかし、結果的には学生にとつてたいへん大きな学びの機会となり、また受け入れた酪農家の方たちにも学生のがんばりが通じて、2003年度へのつながりをつくることができました。



2003年は18名が参加

2002年の参加者が「学んだことを伝えたい」と、今年の酪農研修インターンシップ実行委員会を立ち上げました。各大学生協に募集ポスターを掲示し、受付をお願いしました。生協のない京都産業大学にも大学生協事業連合を通じて案内を送り、参加者を募りました。その結果、京都産業大学を含む7大学から18名（男子2・女子16）が応募し、今年もたくさんさんの体験・経験を積みました。

その後の感想交流会で出されたレポート（抜粋）を紹介します。

○お金があれば何でも手に入る時代だが、それらはすべて誰かの手によって生産されたもの。消費者はそのことをしっかりと胸にとどめることが大切と思う。

○大山乳業のこだわりは「安全」。私たちがその努力やこだわりに応えていくことが一番大切なこと。

○おいしい牛乳を届けるためにどの作業にも手を抜かず、牛に愛情を注ぐみなさんに本当に熱いものを感じた。自分もそんなやりがいのある職業につければ。

○参加して本当によかった。単に食のことを意識するだけでなく、仕事へのこだわりや人生のことも考える場になった。

生産者と消費者はパートナー

今回のインターンシップや産直フォーラム、また生協職員向けの研修企画などを通じ、「生産者と消費者がお互いの顔を見る」関係づくりの大切さに気づいた人が増えてきました。そうしたとりくみがすすみ、生産者と消費者はお互いにパートナーという意識を持った学生が社会人となったとき、産消直結の想いが社会全体に広がればと思います。

私たち自身、農家の仕事に触れるのは初めてで、何もかもが新鮮で、驚きで、感動でした。搾乳や糞掃除などの作業、牛の出産の立会い、仔牛の哺乳など、本当にたくさんを経験しました。今後私たちと同じようにさまざまなことを体験し、考えた学生や生協職員が、それぞれの大学で産直活動を広げていってほしいと思います。

（文責京滋・奈良地域センター学生事務局
加藤祐子・大矢悠貴）



消費者保護基本法の抜本改正を

急増する消費者被害

ここ数年、商品やサービス・金融に関する消費者被害が日本各地において急増し、消費者のくらしをおびやかしています。

国民生活センターの統計によると、全国各地の消費生活センターなどに寄せられた消費者からの苦情件数は、2002年度には83万件に上り、10年前の約4・4倍に達しています。さらに、食品偽装事件など企業不祥事の続発により、消費者は企業に対して大きな不信を抱いています。

消費者権利の確立に向けて

こうした状況をふまえ、内閣府・国民生活審議会の消費者政策部会では、報告書「21世紀型の消費者政策の在り方について」を2003年5月にとりまとめました。

この報告書は、消費者の権利を消費者政策の基本理念とし、消費者保護基本法の抜本改正をはじめ、消費者団体訴訟制度（団体訴権）等の導入を明確に打ち出すなど、日本の消費者政策にとって画期的意義のあるものといえます。

現在、政府では、この報告書の具体化にむけて、消費者保護基本法の見直しの検討作業などがすすめられ、来年の通常国会で改正法案が審議される見通しとなっています。しかし、「消費者の権利」を法律に明記することについては事例が少なく、困難が予想されています。消費者にとって安全・安心なくらしが保障される社会システムを実現するためには、「消費者の権利」を基本にすえた消費者保護基本法の抜本改正が必要です。

京都府生協連では、全国の生協とともに、次の要望をとりま

とめて、関係者へはたらきかけをおこなっています。

【要望】

国においては、「消費者の権利」を明記した消費者保護基本法の改正をはじめ、消費者団体訴訟制度の導入、消費者政策の推進体制の見直しをおこなうことを要望する。

1. 消費者・事業者間の情報力・交渉力等の格差を是正し、消費者問題に関する施策の充実につなげるため、国際的にも標準となっている「消費者の権利」を明記すること

2. 消費者被害を効果的に防止・救済しうる消費者団体訴訟制度を導入するために、導入の根拠となる規定を盛り込むこと

3. 消費者政策の推進体制に関する規定について、各省庁に対する勧告等を含め、消費者政策の総合的かつ一元的な体制を設けること

「京都府商工部と京都府生協連の定期懇談会」開催

食の安全、21世紀型の消費者行政のあり方について懇談

8月8日、京都府庁旧館会議室で京都府商工部と京都府生協連の定期懇談会が開催されました。商工部からは奥原恒興部長、消費生活課八島一美課長、同井上茂主幹、蔭山主事、伊藤専門員が参加。京都府生協連からは、京都生協 小林智子理事長、同理事会室谷口勲渉外担当、京都府庁生協 小川正常任理事（総括）、京都医療生協 田中弘専務理事、大学生協京都事業連合 酒井克彦専務理事、京都府生協連 古田智道会長理事、同小峰耕二専務理事、同坂本事務局長が参加しました。

意見交流のなかで「食の安全行政」「21世紀型消費者行政」のあり方がテーマとなり、小峰専務理事が、全国の生協の消費者権利の強化に向けたとりくみについて報告しました。



消費者から相談の多い商品・サービス上位10位

京都府消費生活科学センター
平成14年度消費生活相談概要より抜粋 (件)

順位	商品・サービス名	14年度	13年度	増加率
1	通信サービス	988	733	134.8%
2	フリーローン・サラ金	469	248	189.1%
3	賃貸住宅	330	278	118.7%
4	住宅工事	158	145	109.0%
5	アクセサリ類	146	107	136.4%
6	自動車	145	140	103.6%
7	資格用教材	145	106	136.8%
8	パソコン類	139	169	82.2%
9	内職副業	138	199	69.3%
10	学習教材	127	137	92.7%

「第3回京都府協同組合 職員体験・交流学校」開催

「京都府協同組合 職員体験・交流学校」は、京都府協同組合連絡協議会を構成する四連（JA・森連・漁連・生協）と、その会員組織に働く職員の共育・成長をめざし開催されるもので、今年で3回目を迎えました。

今回はJAが当番となり、9月11日

12日の2日間、久美浜町のJA諸施設や作物を栽培する現場などでの体験を中心に開催。このような体験ははじめてという参加者が多く、身についた学習の機会となりました。研修先では担当職員のていねいな説明を受け、参加者からは熱心な質疑がおこなわれました。

2日間の体験・交流をつうじて、四連の状況や課題、職員の役割などについても意見交換ができました。

第3回 京都府協同組合



開講のあいさつをする、
JA京都中央会の牧野吉明総務部長



主催者を代表して、京都府漁連の
上田功代表理事会長がごあいさつ



植樹する京都府漁婦連 委員長 和田智恵子さん（右）と
京都府生協連 小林智子副会長理事（左）

10月26日、京都府伊根町太鼓山で、京都府漁連主催による、漁民の森推進事業「浦島エコローの森づくり」が実施され、京都府協同組合連絡協議会（JA・森連・漁連・生協連）が協力しました。

これは、環境保全を大切にした農業、漁業、林業の促進のとりくみとして毎年開催されており、植樹ボランティアとして生協から40名が参加しました。

また、植樹にあたり、宮津地方森林組合のご指導・ご協力をいただきました。

「浦島エコローの森づくり」 植樹ボランティアに参加

第15回 近畿地区生協・行政合同 会議開催

9月17日、大阪KKRホテルで「第15回 近畿地区生協・行政合同会議」が開催され、行政・生協から43人が参加しました。

大阪府生活協同組合連合会・山本邦雄専務理事の司会で開会し、近畿地区府県連協議会代表・兵庫県生活協同組合連合会・宮内会長理事、厚生労働省近畿厚生局保健福祉部 佐藤部長、大阪府生活文化部 山登部長からごあいさつがありました。

日本生協連 田中常務理事が、全国の生協の概況、食の安全、消費者施策、福祉・環境・防災のとりくみなどについて報告、各府県生協連合会からも特徴的な活動などについて報告がありました。

京都府の蔭山主事からはヤミ金問題への協力要請、消費者政策見直し提起されるなかでの生協の役割、大学生協の経営問題などにふれての発言がありました。



「第15回 KYOのあけぼのフェスティバル2003」ワークショップ開催

10月19日(日)、京都府民総合交流プラザ 京都テルサで、「第15回 KYOのあけぼのフェスティバル2003」が開催され、京都府生協連男女共同参画委員会がワークショップを実施、23名が参加しました。

今回のテーマは「知っておきたいくらしの中のジェンダー」離婚に見るジェンダー問題」。京都第一法律事務所弁護士 藤澤眞美さんを講師にお迎えし、お話いただきました。



京都府勤労者健康スポーツフェスティバル開催

10月19日(日)、丹波自然運動公園で京都府勤労者健康スポーツフェスティバルが開催され、およそ3000名が参加しました。



京都市ゴミ減量推進会議がマイバッグ持参を呼びかけ

10月28日(火)、ジャスコ洛南店で京都市ごみ減量推進会議によるマイバッグ持参の呼びかけがこなわれました。京都府生協連からは小峰専務理事と坂本事務局長が参加。お買い物をしていただくため買い物袋を持参いただくようお願いしました。



京都消費者団体連絡協議会が特定非営利活動法人(NPO)として新たなスタート

京都消費者団体連絡協議会がNPO法人となり、名称を「コンシューマーズ京都(京都消団連)」として新たな活動をはじめることになりました。

10月31日(金)には記念のつどいがホテルプリンセス京都で開催され、およそ80名が参加。今後の活動に期待を寄せて親しく懇談しました。



2003年度京都の生協活動への功労者表彰式開催

11月6日(木)、2003年度京都の生協活動への功労者表彰式が京都産業会館で開催されました。これは京都府生協連の制度にもと

づき毎年おこなわれるもので、今年度も京都府生協大会の午前の部として開催。各生協から推薦された20名のうち、11名の功労者のみなさんが出席、京都府生協連 吉田智道会長理事より表彰状と記念品が授与されました。



男女共同参画委員会が京北町銘木生産協同組合を訪問

11月12日(水)、京都府生協連男女共同参画委員会のメンバーが京北町銘木生産協同組合を訪問し、米嶋昌史副理事長と懇談しました。北山杉を育てる苦労や加工品へのチャレンジなど、さまざまなお話をいただきました。地元の京都生協組合員とも懇談し、地域の特色や生協活動などについて意見を交流しました。



12月6～7日、京都府総合見本市会館（パルスプラザ）1階で「京都環境フェスティバル2003」が開催され、京都府生協連も出展。京都生協の環境サポーターといっしょに環境商品の展示やクイズをおこないました。

「京都環境フェスティバル2003」に出展



北山丸太について説明する京北町銘木生産協同組合の米嶋昌史副理事長

「第5回京都消費者フォーラム」開催

12月6～7日、京都府総合見本市会館（パルスプラザ）2階で「第5回京都消費者フォーラム」が開催され、京都府生協連はメインステージで「トークショー・行列のできる消費者法律相談所」の安全・くらしの安心」を企画、約60名の参加となりました。

寸劇仕立てで製造物責任法や消費者契約法などに関わる消費者問題をとりあげ、京都第一法律事務所 所の弁護士 飯田昭さんにコメントをいただきました。



トーク&イート企画

「21世紀京都の稲・コメ・ごはん」生産と消費をになう」開催

11月13日（木）、平安会館で、「ごはん食推進活動支援事業」にもとづくトーク&イート企画「21世紀京都の稲・コメ・ごはん」生産と消費をになう」が開催され、130名が参加しました。これはJAと生協が「21世紀京都の稲・コメ・ごはん」のありようについて語りあおうという企画で、農林水産省近畿農政局 山川雅典局長からもご来賓のごあいさつをいただきました。



農林水産省近畿農政局 山川雅典局長

第一部・シンポジウムでは、コーディネーターに滋賀県立大学環境科学部助教授の増田佳昭先生、パネリストとして農林水産省近畿農政局食糧部 坂路誠部長、JA京都中央会地域振興対策部 牧克昌部長、綾部市生産者の西山徹さん、京都生協商品部 竹内昇商務、

京都生協組合員 深山真理さんに
ご参加いただきました。



滋賀県立大学環境科学部 増田佳昭 助教授



第二部・試食会では、料理研究家力石さちさんのレシピによるおにぎりやごはん料理、米粉を使ったパンやお好み焼き・たこ焼きなど、お米を使ったさまざまなメニューが並びました。



宇治・やまぶきの丘 第5期分譲中

便利・安心・やすらぎの
やまぶきの丘でぬくりのある生活をコーディネート

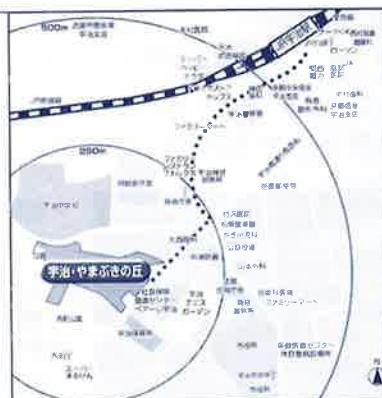
特殊法人 日本勤労者住宅協会

〒114-0033 東京都文京区千石3-1-1 (池袋・有明線)
http://www.jkpa.jp



〒624-8604 京都府宇治市山崎1-1-1 (JR宇治線)
0774-24-0002 075-801-5121

☎0774-24-0002 ☎075-801-5121



おもな行事のお知らせ

2004年 新春交歓会

主催：京都府生活協同組合連合会

日時：2004年1月10日(土)

12:00～13:30

会場：コープイン京都2階

京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル

京都府生活協同組合連合会と 各会員生協との防災訓練

日時：2004年1月15日(木)

7:00～11:00

内容：京都府生協連と各会員生協の災

害対策本部設置と立ち上げ訓

練・相互連絡訓練。

2003年度

監事・役職員研修会

日時：2004年2月14日(土)

13:30～16:00

会場：せいきょう会館4階

対象：会員生協監事・役職員

講演：「生協におけるコンプライアンス

経営を促進するために」

講師：日本生協連政策企画部

清藤 正氏

2003年度

ライフプランセミナー

主催：京都府生活協同組合連合会

京都生活協同組合共済会

日時：2004年1月10日(土)

10:00～16:30

会場：平安会館1階平安の間

京都市上京区烏丸通上長者町上ル

対象：京都府生協役職員

講師：ファイナンシャルプランナー

いちのせかつみさん



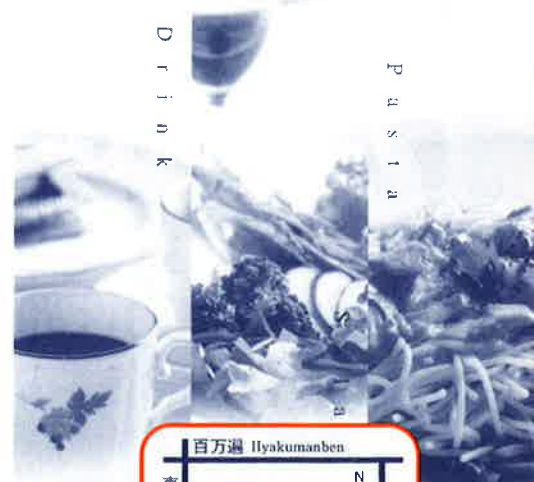
探訪

キャンパスのオアシス、
カンフォーラ。オープン

2003年5月17日

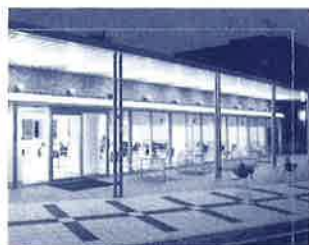
CAFÉ
RESTAURANT

Camphora



キャンパスの洒落た食のサロン、色んな人が出会い、集う。
新しい交流のプラザとして正門の楠の学名「Cinnamomum camphora」に因み、
店名をカンフォーラと名づけました。

モーニング・アフタヌーン・ディナータイムに気軽に自由にご利用いただける、
食のスペースをご用意いたします。



●営業時間 年中無休（年末年始は除きます）

平日 ▶ 8:00～22:30

土・日・祝 ▶ 11:00～15:30

●お問い合わせ

tel.075-753-7628 fax.075-753-7629

※京都大学生協が運営しています。

